第十講・文学的文章⑥

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

> 天神祭りに行った信雄と喜一は、もらったこづかいをいっしょにしてロケットのおもちゃを買おうと考えた。が、二人分のお金をあずかった喜一は飲み物や食べ物をほしがり、信雄と言い争う。

　いつのまにか空はすっかり暗くなり、商店街に吊るされたちょうちんにも裸電球にも灯が入って、急激に増してきた人の群れがその下で押し合いへし合いしている。

　すねたふりをして一歩も動こうとしない喜一を尻目に、①信雄はひとり境内に向かって歩きだした。歩き始めると、人波に押されて立ち停まることもできなくなってしまった。喜一の顔が遠ざかり見えなくなった。

　信雄は慌てて引き返そうとした。色とりどりの浴衣や団扇や、汗や化粧の匂いが、大きな流れとなって信雄を押し返す。やっとの思いで元の場所に戻って来たが、喜一の姿はなかった。信雄はぴょんぴょん跳びあがってまわりを見渡した。いつのまにすれちがったのか、人波にもまれている喜一の顔が、神社の入口のところで見え隠れしていた。

「きっちゃん、きっちゃん」

　信雄の声は、子供たちの＊1喚声や祭り囃子に消されてしまった。喜一は小走りで先へ先へと進んでいく。相当＊2狼狽して信雄を捜しているふうであった。信雄は大人たちの膝元をかきわけ、必死で走った。何人かの足を踏み、ときどき＊3怒声を浴びて突き飛ばされたりした。境内の手前にある風鈴屋の前でやっと喜一に追いついた。赤や青の短冊が一斉に震え始め、

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

それと一緒に、何やら胸の底に突き立ってくるような冷たい風鈴の音に包みこまれた。信雄は喜一の肩を掴んだ。喜一は泣いていた。泣きながら何かわめいた。

「えっ、なに？　どないしたん？」

　よく聞きとれなかったので、信雄は喜一の口元に耳を寄せた。

「お金、あらへん。お金、落とした」

　風鈴屋の屋台からこぼれ散る夥しい短冊の影が、喜一の歪んだ顔に映っていた。

　信雄と喜一はもう一度商店街の端まで行き、地面を睨みながらじぐざぐに歩いた。再び風鈴屋の前に戻って来たが、落とした硬貨は一枚も見つからなかった。喜一のズボンのポケットは、両方とも穴があいていた。

　信雄が何を話しかけても、喜一は黙りこくったままだった。②人波に乗って二人は境内に流されていった。

　一台のだんじり*4が置かれ、その中で数人の男がお囃子を奏でていた。同じ旋律の執拗な繰り返しに酩*5酊した男たちは、裸の体から粘りつくような汗を絞り出している。数珠繋ぎに吊るされた裸電球が、だんじりのまわりでびりびり震えていた。

　信雄は石段に腰をおろし、ちょうど目の前に佇んで誰かを待っているらしい浴衣姿の少女を見つめた。その少女の持つ廻り灯籠の中で、黒い屋形舟が廻っている。

　鈍い破裂音が聞こえ、それと一緒に硝*6煙の匂いがたちこめた。信雄と喜一の前にプラスチック製の小さなロケットが落ちてきた。境内の奥に、とりわけ子供たちの集まっている露店があり、おもちゃのロケットが茣蓙に並べられていた。喜一が足元のロケットをすばやく拾いあげ、信雄の手を引いてその露店の所まで走った。

　はちまき姿の男は茣蓙に座ったまま喜一の手からロケットを受け取り、

「サンキュー、サンキュー、ご苦労さん」

と潰れた声で言った。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③信雄と喜一は顔を見合わせて笑った。

（宮本輝（みやもとてる）『泥（どろ）の河（かわ）』）

＊１喚声＝興奮（こうふん）して出す大きな声。
＊２狼狽＝あわてふためくこと。
＊３怒声＝おこって出すどなり声。
＊４だんじり＝山車（だし）。
＊５酩酊＝酒にようこと。
＊６硝煙＝火薬が燃えて出るけむり。

問一　――線①「信雄はひとり境内に向かって歩きだした」のはなぜですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　自分がひとりで先に行くふりをすれば、すねたふりをしている喜一もあきらめてついてくると思ったから。

イ　すねたふりをしている喜一がにくらしく、もういっしょに行くのはいやだと思ったから。

ウ　ロケットのおもちゃを売っている露店に早く行きたくて、喜一のことはあまり気にしていなかったから。

エ　歩き始めるつもりはなかったが、人波に押されるうちに立ちどまっていることができなくなったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　18行目から28行目の間で、何かよくないことが起こったことを暗示している一文はどれですか。その文の初めの四字を書きぬきなさい。

問三　――線②「人波に乗って二人は境内に流されていった」とありますが、このとき、二人はどんな気持ちになっていましたか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　信雄はお金を落とした喜一に腹を立て、喜一は一人で責任を感じて悲しい気持ちになっていた。

イ　二人とも、お祭り気分がふきとんで、お金をなくしたくやしさと情けなさで、重苦しい気持ちになっていた。

ウ　二人とも、お金をまったく持っていないことを心細く思い、早く家に帰りたいという気持ちになっていた。

エ　二人とも、境内のほうからもう一度さがして、落としたお金を絶対に見つけるんだと意気ごむ気持ちになっていた。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線③「信雄と喜一は顔を見合わせて笑った」とありますが、ここから二人の気持ちが変化していることがわかります。その変化が起きる最初のきっかけになったのは、どんなできごとですか。それが書かれているひと続きの二文をさがし、その初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

初め □□□□□

終わり □□□□□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔二人分のこづかいを落としてしまったことで、信雄と喜一は落ちこんでしまうが、破裂音とともに二人の前に飛んできたロケットを見て、再びお祭り気分をとりもどす。〕

「それ、なんぼ？」

「たった八十両、どや安いやろ」

①二人はまた顔を見合わせた。二つも買えたうえに、焼きイカが食べられたではないか。

「さあ、もういっぺんやって見せたるさかい、買うていけよ！」

危ないぞォ、月まで飛んでいくロケットじゃあと叫びながら、男は短い導火線に火をつけた。信雄も喜一も慌てて二、三歩とびのくと、固唾を呑んで導火線を見つめた。

大きな破裂音とともに、ロケットは斜めに飛びあがり、銀杏の木に当たって賽銭箱の中に落ちた。慌てて追いかけていく男の姿が、見物人の笑いをかった。信雄も笑った。笑いながら喜一の顔を見た。なぜかあらぬ方に視線を注いでいるa喜一の目が、細くすぼんでいた。

「ちえっ、あんなとこに落ちてしもたら、もう取られへんがな」

走り戻って来て、男は茣蓙の上にあぐらをかき、八ツ当たりぎみに怒鳴った。

「こら＊甲斐性なし！　こんなおもちゃの一つや二つ、よう買わんのんかい。ひやかしだけの奴はどこぞに行きさらせ」

「のぶちゃん、帰ろ」

喜一が信雄の肩をつつき、足早にだんじりの横をすり抜けて行った。

「早よ行こ、早よ行こ」

②喜一は笑って叫んだ。人の波はさらに増して、神社の入口で渦を巻いている。

人混みを避けて露路の奥に駆け入ると、b喜一は服をたくしあげた。おもちゃのロケットがズボンと体

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の間に挟み込まれていた。

「それ、どないしたん？」

「おっさんがロケット拾いに行きよった時、盗ったんや。これ、のぶちゃんにやるわ」

信雄は驚いて喜一の傍から離れた。

「盗ったん？」

得意そうに頷いている喜一に向かって、信雄は思わず叫んだ。

「そんなんいらん。そんなことするのん、泥棒や」

③信雄の顔を、喜一は不思議そうに覗きこんだ。

「いらんのん？」

「いらん」

口汚なく怒鳴っていた＊2香具師から、まんまとロケットを盗んできたことは、信雄にも少し□なことであった。だが彼は心とはまったく＊3裏腹な言葉で喜一をなじっていた。喜一の手からロケットを奪い、足元に投げつけた。そして小走りで人混みの中にわけいっていた。喜一はロケットを拾い、追いすがって来て、また言った。

ｃ「ほんまにいらんのん？」

自分でもはっとする程激しい言葉が、信雄の口をついてでた。

「泥棒、泥棒、泥棒」

人波をかきわけかきわけ、信雄はむきになって歩いた。喜一の悲痛な声がうしろで聞こえた。

「ごめんな、ごめんな。もう盗んだりせえへん。のぶちゃん、僕もうこれから絶対物盗ったりせえへん。そやから、そんなこと言わんとってな。もうそんなこと、言わんとってな」

振り払っても振り払っても、ｄ喜一は泣きながら信雄にまとわりついて離れなかった。二人は縺れ合いながら、少しずつ祭りの賑わいから離れていった。

（宮本輝『泥の河』）

＊１甲斐性なし＝意気地のない人。

＊２香具師＝祭りや縁日など人出の多い所で、商品を売る人。

＊３裏腹＝反対なこと。あべこべ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「二人はまた顔を見合わせた」とありますが、このときの二人の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　思ったよりもロケットが安いので喜んでいる。
イ　お金をなくしたことを思い出し、ぞっとしている。
ウ　ロケット売りの熱心さに困りはてている。
エ　お金をなくしていなければ、とくやしがっている。

□

問二　――線②「喜一は笑って叫んだ」とありますが、喜一はなぜ笑っているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　信雄が人波に流される様子がおかしかったから。
イ　うまくロケットのおもちゃを盗むことができて、得意になっていたから。
ウ　口汚なく怒鳴っていたロケット売りの男に仕返しができて、うれしかったから。
エ　ロケット売りが、自分で失敗したのに客に八ツ当たりぎみにどなったのがおかしかったから。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「信雄の顔を、喜一は不思議そうに覗きこんだ」とありますが、その理由として適当でないものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　おもちゃのロケットを盗んだくらいで、どうして「泥棒」などと言われなければならないのか、わからなかったから。

イ　口汚なく怒鳴っていたロケット売りからロケットを盗んだことを、信雄が少しも喜んでくれなかったから。

ウ　信雄がほしがっていたロケットをせっかく手に入れたのに、信雄はそれをほしがらないばかりか、「泥棒」と言ったから。

エ　自分がロケットを手に入れるために苦労したことを信雄も知っているはずなのに、一方的に非難（ひなん）されたから。

□

問四　□にあてはまることばとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　心配

イ　痛快

ウ　残念

エ　意外

□

問五　……線a～dのそれぞれの部分に表れた喜一の気持ちの移り変わりとして、最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　緊張（きんちょう）→得意→いら立ち→悲しみ

イ　緊張→得意→不安→悲しみ

ウ　不安→安心→驚き→いら立ち

エ　不安→得意→いら立ち→後悔（こうかい）

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　文学的文章⑥

一題目

問一　ア
問二　赤や青の
問三　イ
問四　鈍い破裂音　～　ちてきた。

二題目

問一　エ
問二　イ
問三　エ
問四　イ
問五　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。